

第1章

これまでの成果



第三期長期計画の方針と実績

第三期基本構想・長期計画では計画の基本目標として以下の6つを掲げていた。

- (1) 地域ふれあいまちづくり
- (2) 子どもがいきいき育つまちづくり
- (3) 快適環境まちづくり
- (4) 広域協力まちづくり
- (5) 情報交流まちづくり
- (6) 「市民のふるさと」まちづくり

これらの基本目標に照らして、過去4年間の市政の実績を評価すれば、以下のとおりである。(→12頁)

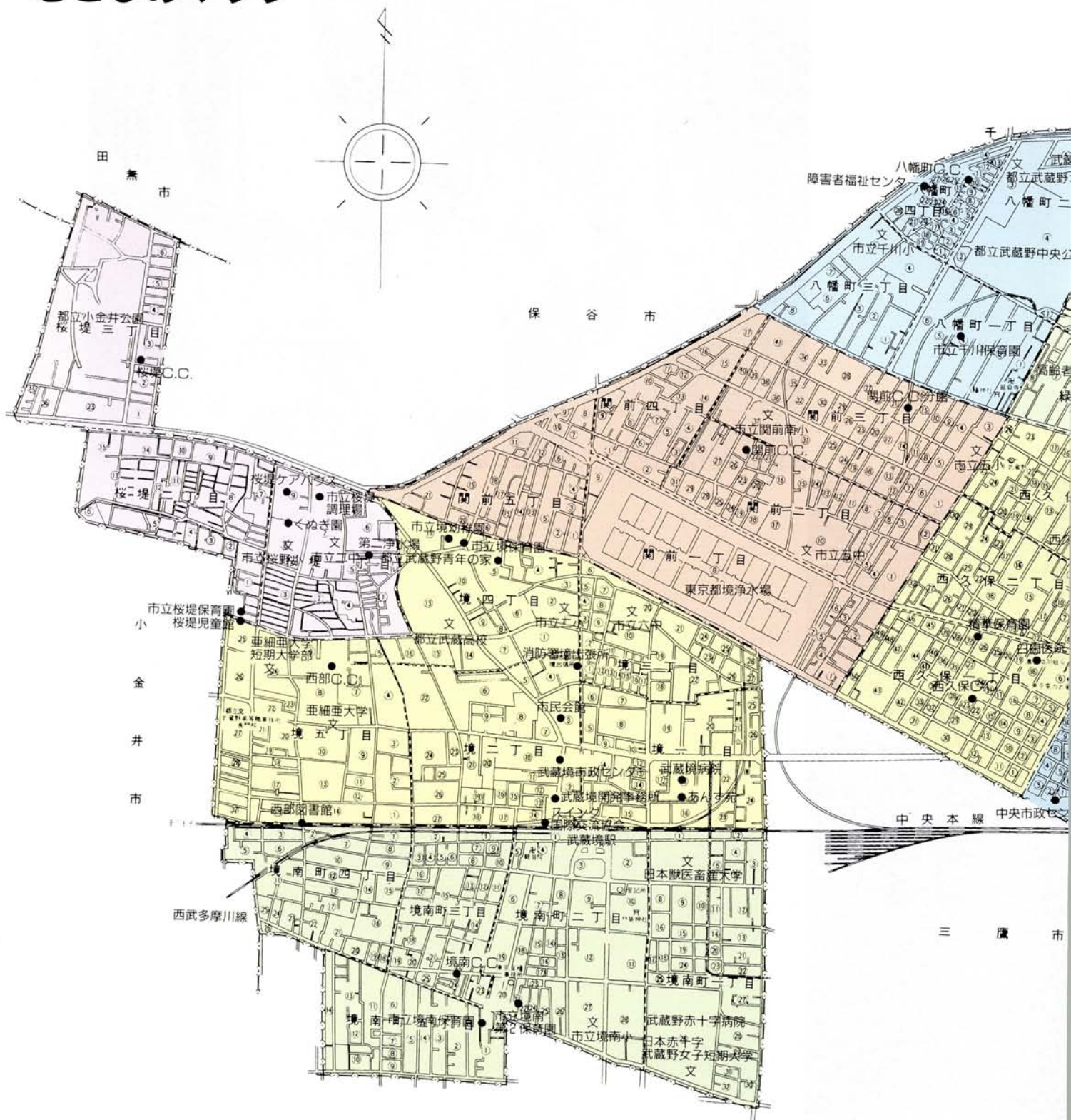




東京国際スリーデーマーチ けやき並木を歩く参加者



むさしのマップ



※C.Cはコミュニティセンター

■武蔵野市の市勢と地勢データ

- 位 置：東経139度34分10秒／北緯35度42分50秒
- 標 高：50m～65m(市役所57.514m)
- 広 さ：東西6.4km、南北3.1km
- 面 積：10.73km²



- 平均気温：15.4℃
- 交通：JR 三鷹—東京29分
JR 三鷹—新宿14分
JR 三鷹—立川13分
井の頭線吉祥寺—渋谷17分

- 総人口：13万308人(平成9年1月1日現在)
男：6万3,850人/女：6万6,458人
- 世帯数：6万1,978世帯
- 外国人登録者数：2,217人(平成9年1月1日現在)



高齢者
デイサービス

(1) 地域ふれあいまちづくり

高齢者・障害者が生きがいを持って暮らせる地域社会を実現するための施策としては、生涯学習の推進、シルバー人材センターの充実など、様々な形での社会参加がはかられてきた。第三期長期計画期間中には、高齢者総合センター、障害者総合センターなどが建設され、施設の総合的整備が進んだ。

高齢者福祉に関しては、平成6年12月に東京都との合築により、市内ではじめての特別養護老人ホーム^{*1}「吉祥寺ナーシングホーム」が開設され、その後、平成8年7月には30人定員の小規模特別養護老人ホーム「ゆとりえ」が吉祥寺南町に開設された。また、学生寮との合築による軽費老人ホーム「桜堤ケアハウス」（定員30名）も平成8年6月に開設され、若者と高齢者の日常的な交流がおこなわれる新しい施設として注目されている。これらの施設には、デイサービスセンター^{*2}、在宅介護支援センター^{*3}が併設されており、在宅介護を地域で支援するしくみづくりがはかられている。

人にやさしい福祉のまちづくりについては、境南町の「すぎみ小路」^{*4}の整備や三鷹駅・吉祥寺駅のエスカレーター設置、道路の段差解消などが進められた。

吉祥寺東部地域のコミュニティバス^{*5}「ムーバス」は、運行開始以来1年間で有料乗客数が35万人を超え、高齢者などが気軽にまちに出る交通手段として多くの市民に利用されている。今後は、他の地域での運行も期待されている。

*1 特別養護老人ホームは、重い心身障害があり、常時の介護を必要とするが、居家でその受け入れが困難な65歳以上の者を入所させる施設。
*2 デイサービスセンターは、在宅の障害をもつ老人などに、入浴、食事の提供、機能訓練などサービスを提供する施設。
*3 在宅介護支援センターは、在宅の障害をもつ老人などの介護をおこなっている家庭に対し、在宅介護に関する総合的な相談指導をおこなう。また、障害をもつ老人や介護者に、ニーズに応じた保健・福祉サービスを十分に提供できるよう、関係行政機関やサービス実施機関との連絡調整をおこなう。



セカンドスクールでの農作業体験

(2) 子どもがいきいき育つまちづくり

子育て支援事業については、市立保育園整備の一環として、境保育園の移転と乳児定数の増員が予定されている。また、午後7時までの延長保育、産休明け保育の実施など、保育ニーズの多様化に応える施策が実現されつつある。平成4年11月に開設したニュータイプ^{*6}の乳幼児施設「0123吉祥寺」は、平成7年度には一日平均79人の乳幼児が保護者とともに利用しており、育児をとおした親同士の交流の場として定着しつつある。

また、地域での子どもの交流の場として、積極的な学校施設開放を推進し、学校週5日制にともなう児童生徒の余暇活動の充実に貢献してきた。改築された千川小学校は、地域開放を理念とする生涯学習対応型施設であり、今後の活用が大いに期待される。

学校教育においては、平成7年度からセカンドスクール^{*7}の本格試行がスタートした。児童生徒に自然や集団生活を体験する機会を与えることによって、自主性のある、たくましい子どもを育成するための事業となっている。また、市独自の時間講師の導入や地域の人材の登用、帰国・外国人児童生徒への柔軟な対応の充実など、武蔵野の実情にそくして、児童の個性を引き出し、伸ばす教育の推進がはかられつつある。

*4 すぎみ小路は、JR武蔵野駅と武蔵野赤十字病院を結ぶ道路の一部で、高齢者や弱者が夜間でも歩きやすいように路面に太陽電池利用の発光ブロックを埋め込んだり、どこでも腰掛けて休めるようなガードベンチなどを設置し、自転車優先・歩行者優先の道路に整備した。
*5 コミュニティバスは、バス交通の空白・不便地域を解消することを目的として考え出された交通手段。高齢者や幼児連れの人が気軽にまちに出かけられるなど、いろいろな活用が考えられる。

(3) 快適環境まちづくり

21世紀における人類最大の課題は環境と資源の問題だといわれている。武蔵野市においても、第三期長期計画策定以降、自治体および市民の一人ひとりが、地球環境の保全に向けての主体であるという認識にたち、積極的に取り組みをおこなってきた。

自然や緑の保全、回復に関しては、市内で西暦2,000年までに2,000本の樹木を指定し、22世紀には樹齢100年以上に育てる計画（「大木・シンボルツリー2000計画」）などを進めるとともに、関前公園をはじめとして公園の新設・拡充につとめ、緑被率の向上をめざしており、「緑の基本計画^{*8}」の策定に着手した。また、ロシア共和国ハバロフスク市との交流を通じ、青少年たちがシベリアの寒帯林保護の大切さを学ぶ活動が進んでいる。また、ごみを減量し、リサイクル型社会の形成を進めるため、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などのリサイクル活動にも、市民とともに取り組んでいる。

さらに、社会、生活構造を資源循環型に変換し、環境への負荷を極力少なくしていくため、市施設へのソーラーシステムの導入や、雨水浸透の推進などをはかっている。

また、市政アンケート調査【表1】などで市民要



春の武蔵野を歩く

■表1：市民の要望の高い施策の順位
(市政アンケート調査より)

	平成 8年度	平成 7年度	平成 6年度
高齢者福祉	1	1	1
廃棄物対策	2	4	3
災害に強いまちづくり	3	2	12
交通システムや道路環境の整備	4	5	4
自転車対策の推進	5	3	2
環境・公害問題	6	6	5
緑と水のネットワークづくり	7	7	6
市民の健康	8	8	7
駅周辺の整備・再開発	9	10	8
住宅政策の充実	10	9	9
生涯学習対策	11	11	10
障害者福祉	12	12	11
就学前児童へのサービスの充実	13	14	13
小・中学校教育の充実	14	13	14
情報化の推進	15	15	15
市民生活対策	16	16	16
都市交流・国際交流の推進	17	17	17
産業対策	18	18	18

資料：市民部生活文化課

*6 「0123吉祥寺」は、0歳から3歳までの乳幼児とその親を対象に、子育ての支援をおこなうとともに、親同士のネットワークを地域に広げるための施設。平成4年11月、吉祥寺東町にオープン。
*7 セカンドスクールは、豊かな人間性や生活自立に必要な知識・技能・態度・習慣の育成をねらいに、自然体験・勤労体験・自立的な生活体験・集団での共同生活体験を拡大するため、自然の豊かな場所につくる長期滞在型の学習施設。

*8 緑の基本計画は、都市緑地保全法に基づいて緑の将来像および目標を設定し、その実現に向けて市民と一体となって進めるための具体的な緑化施策を盛り込んだ総合計画。



「ふるさと美しく」事業
豊科町「白鳥湖」周辺の散策道整備

望の高い交通対策については、「武蔵野市自転車等の適正利用および放置防止に関する条例」に基づき、放置自転車の撤去料の徴収、放置禁止区域の指定などをおこなうとともに、駐輪場の整備を進め、駅周辺の歩行空間整備などを通じての快適な都市環境づくりを実現してきた。

平成8年4月からの建築主事導入は、狭あい道路^{*1}拡幅整備件数や違反建築の摘発件数の増加という結果につながり、道路景観整備事業などとあいまって、統一のとれた景観を持つ、アメニティ都市づくりが進められている。



(4) 広域協力まちづくり

JR中央線の連続立体交差化事業は、沿線各市の連携が実を結び、東京都は平成7年11月に建設大臣の事業認可を取得するに至った。

また、武蔵野・三鷹・小金井・田無・保谷の五市で構成する五市行政連絡協議会^{*3}は、図書館をはじめとする文化・スポーツ施設の利用ガイドブックを平成6年9月に共同作成し、施設の相互利用を進めている。

阪神・淡路大震災の教訓からも、平時からの広域協力体制づくりの重要性が求められている。このこ



都市と農山漁村の協力により、お互いにとって暮らし良い環境が生みだされます。

とを踏まえ、姉妹友好都市との災害時協力などの協定締結も具体的に始まっている。

また、都市と農村が一極集中と過疎を乗り越え、お互いの生活は、様々な場面での相互依存の上になりたっているという観点から、国土の均衡ある発展と環境・景観の保全を両立させる取り組み（「ふるさと美しく事業」）も始まっている。

(5) 情報交流まちづくり

まちづくりの主役は個々の自治体とそこで暮らす市民であるという地方分権への流れが加速する中で、行政から住民へのいっそうの情報の公開と提供、住民から行政への意見・要望・評価という双方向的なコミュニケーションはますますその重要性を増している。行政に対する市民の要望は多種・多様化する傾向にあり、市の情報提供のあり方にもさらにきめ細かさが要求されるようになってきている。市では、CIM^{*4}の理念をもとに市報などをおして積極的な情報提供をおこなうとともに、情報公開制度のよりいっそうの充実・定着をはかってきた。また、平成8

*1 建築主事は、申請された建築計画がその敷地、構造、設備に関する法律や条例の規定に適合するかどうか審査し、確認する機関。人口25万人以上の市は建築主事を置かなければならないが、それ以下の市でも置くことができる。
*2 狭あい道路は、幅員4m未満の道路。建築基準法では4m以上を道路と定義しているが、整備されずに今日に至っている。防災上、生活環境上から整備が必要とされている。武蔵野市では、道路延長234kmのうち84km(36%)が狭あい道路である。

*3 五市行政連絡協議会は、多様化する都市行政について、情報交換および広域的課題の協議をおこなうことを目的として、武蔵野・三鷹・小金井・田無・保谷の五市により、平成4年4月に設置された。
*4 シビルインフォメーションミニマム。市民の知る権利を保障する考え方。市政についての最低限の情報は市報などをおして広く提供をおこなう。開示請求に対する情報公開制度を補完する役割をもつ。

年10月に施行された行政手続条例^{*5}は今後適正に運用されることにより、情報公開制度とあいまって、行政運営における公正の確保と透明性の向上が期待される。

第三期長期計画の策定以降、市は従来型の印刷物による情報提供に加え、「むさしの-FM」をはじめとする音声情報や、CATVなど映像情報の提供にも放送局、ケーブルテレビ局への出資をするなど力をいれてきた。また、市政アンケート調査や各種市民意識調査などを定期的実施し、よりの確な市民意識の把握に努めている。

現在、マルチメディア社会という言葉にあらわされているように、市民の情報入手や発信の手段が急速に進化・多様化してきている。こうした動向も十分にふまえ、市民への情報提供と、施策に対する評価、情報のフィードバック^{*6}のしくみを充実させていく。



(6) 「市民のふるさと」まちづくり

「市民大運動会」や「武蔵野桜まつり」、また武蔵野文化事業団の主催による一流の演奏家を招いてのコンサートは、武蔵野市の自然・風土・文化性を市民が一体となって体感できる事業として定着した。新たに平成8年度から始まった東京国際スリーデーマーチとともに、市民のふるさと意識の向上に寄与していくことが期待される。

また、すでに17館のコミュニティセンターが完成し、市民が自らの手でコミュニティづくりを進めていく環境は整った。補助金など支援のしくみも整い、今後は人材育成などコミセン活動を支える部分の支援の強化が必要となる。

さらに、ボランティア活動はコミュニティづくりの有力な手法であるが、福祉だけでなく、防災の分野においても進めるべきである。この分野においては、すでに119人の防災推進員が活動しているが、今後とも、阪神・淡路大震災を契機としたボランティアについての意識変化を視野にいれ、自主活動としてのボランティア活動を積極的に支援していく。イベントのみでなく、地域活動をとおして、「住んでよかった ふるさは武蔵野」をめざす。

*5 行政手続条例は、行政運営における公正の確保と透明性の向上をはかるため、許認可や不利益処分など市が市民に対しておこなう行政上の手続に一定のルールを定めた条例。平成8年10月1日施行。

*6 フィードバックは、得られた結果について、もう一度元に戻し、さらに新しい情報などを参考にして検討・調整すること。成果の一部を施策などの活力源として再利用すること。

9つの優先事業の進捗

第三期長期計画では、平成5年度から10年度までに優先的に着手すべき事業として、以下の9つを掲げていた。

- (1)武蔵境駅北口周辺再開発事業の完成
- (2)中央図書館の新築
- (3)吉祥寺ナーシングホームの建設
- (4)千川小学校の改築
- (5)農林水産省食糧倉庫跡地の取得と利用計画
- (6)緑町住宅団地の建て替え
- (7)富士高原学園の改築
- (8)歴史資料館の設置
- (9)商工会館の改築

これらの優先事業の進捗は、以下のとおりである。



「スイング」ビルと「スイングホール」

(1) 武蔵境駅北口周辺再開発事業^{*1}の完成

平成8年6月には、市街地再開発事業の中心事業である「スイング」ビルが完成し、10月にはビル内に文化施設として「武蔵野スイングホール」がオープンした。

また、周辺の区画街路等整備事業も順調に進捗しており、今後は、JR中央線の連続立体交差化にあわせ、駅前広場および駅舎づくりも進め、地域住民とともに南北一体となった「境」らしいまちづくりの実現を進める必要がある。

(2) 中央図書館の新築

中央図書館は、平成7年4月に、蔵書22万冊余のほか、CD、ビデオなどのAV関係各種ソフト、パソコンなども備えた最新型の図書館としてオープンした。年間の来館者数も50万人を超え、市民の新しい文化活動・情報収集の拠点として利用されている。図書収蔵能力は最大70万冊であるので、今後、ますますその機能の充実が期待されている。

*1 武蔵境駅北口周辺再開発事業は、駅前広場を含めた都市計画道路が昭和61年に計画決定され、3つのモールを中心に、区画道路、再開発ビルなど、西の玄関口として整備が進められている。



中央図書館内部

(3) 吉祥寺ナーシングホームの建設

市内ではじめての特別養護老人ホーム「吉祥寺ナーシングホーム」(定員50名)は、在宅介護支援センターおよびデイサービスセンターを併設し、平成6年12月にオープンした。また、平成8年7月には、同じく併設型の特別養護老人ホーム「ゆとりえ」が、全国初の都市型小規模特養(定員30名)として吉祥寺南町に開設された。これにより、市内外における特別養護老人ホームのベッド確保数は、平成8年7月現在280床となった。



特別養護老人ホーム「ゆとりえ」

(4) 千川小学校の改築

千川小学校の校舎棟は平成7年2月に完成し、4月から新しい教室で授業がおこなわれている。校舎は、教室と廊下の間の仕切りをなくし、さらに多目的スペースを多くとることでグループ学習や個性化のための指導が効果的におこなわれる設計となっている。その後、第二期工事として、体育館の改築、運動場や防災設備の整備などがおこなわれ、平成8年度末に完成した。建物は100年の耐用年数をもち、屋上緑化、太陽熱利用の給湯、雨水の雑用水利用な

ど、地球環境にも配慮した施設構造となっている。また、地域の生涯学習の拠点としても十分に活用できるよう、地域開放部分の入口を学校教育活動に支障がないように別にするなどの工夫がこらされており、今後の学校整備のモデルとなると期待されている。

(5) 農林水産省食糧倉庫跡地の取得と利用計画^{*2}

全市的な観点および地域の観点から、文化活動の拠点となる多目的施設の充実をはかるべく、農林水産省の関係部門と取得に向けた折衝を続け、合築あるいは市単独での利用計画の立案を進めてきたが、今までのところ具体的な計画は完成していない。早急に利用計画を策定することが必要である。

*2 農林水産省食糧倉庫跡地は、昭和48年以来払い下げの要望を続けてきた、武蔵境駅南口駅前の面積約5,000㎡の土地。平成2年秋、食糧倉庫の立川への移転が完了し、早期取得が期待されている。

(6) 緑町住宅団地の建て替え

緑町住宅団地は、第1期工事が平成8年3月に完成し、現在第2期工事に着工している。建て替えにあたっては、住民、住宅・都市整備公団との協力関係のもとに、緑豊かで、良好な住環境の形成をはかっている。また、団地内に老人保健施設の設置や、高齢者の定住化のために都営住宅を併設するための協議を続けている。



緑町住宅団地

(7) 富士高原学園の改築

富士高原学園は、開設後29年を経過しており、内・外装、建築設備など全体的に老朽化がめだっている。また、セカンドスクールの試行開始にともない、林間学校施設としては使用されていない。

第三期長期計画では、市民の自由時間の拡大や、生涯学習のニーズに応えるため、周辺の豊かな自然環境も生かした「自由活動型施設」として改築する計画であったが、その後の財政状況の変化もあり、その扱いについては現状では凍結されている。

(8) 歴史資料館^{*1}の設置

歴史資料館の設置は、開村100年記念事業に位置づけられ、建設基本構想の検討や、資料の収集などが進められてきたが、財政状況の変化などの影響もあり、先送りされている。

(9) 商工会館の改築

商工会館の改築については、市と商工会議所を中心とする商工会館建設委員会による検討が進められた。市内商工業の振興の拠点とするとともに、消費者支援など多目的な機能を備えた市民施設を併設する内容の基本構想・基本計画が平成8年度に提出され、この方向に沿って、基本設計が進められつつある。

*1 歴史資料館は、郷土資料、古文書などの歴史資料および公文書を収集・保存し、これを展示・閲覧できる施設。